

**ケースメソッドを活用した実践的研修と
インターネット技術を駆使したフォローアップによる地域保健分野の人材育成事業
医療制度構造改革の潮流の中での地域の拠点としての保健所の役割と実践**

研究者 岸本益実(広島県福山地域保健所長)

研究要旨 「医療制度構造改革の流れの中で保健所はどのような対応が出来るのか」という大きなテーマの中で開催される実践的研修会等を支援し、研修の事前課題提示やフォローアップ、情報のデータベース化等をIT技術を活用して行う試行事業等を行った。さらに昨年度に引き続いて、実践的研修手法をより一層高めることで地域保健分野の人材育成に貢献することを目指した。今後、これまでの活動をベースとして、関係する研究班等との更なる連携や IT 活用の一層の推進を図り、医療制度構造改革の潮流の中での各地域におけるモデル的事業の研究的推進を支援することで、地域の拠点としての保健所の役割を提案する。

A. 研究目的

「医療制度構造改革の流れの中で保健所はどのような対応が出来るのか」という大きなテーマの中で、開催される実践的研修会等を支援し、研修の事前課題提示やフォローアップ、情報のデータベース化・ナレッジマネジメント等をIT技術を活用して行う試行事業等を行い、保健所職員の専門性確保・能力向上に資する。

B. 研究方法

1. 研究班の設置(3年計画の研究事業の2年目)。2. 研究班会議・打ち合わせ会議の開催。3. 実践的研修会等の開催。4. ホームページ、メーリングリストの開設・運営、意見調整。5. 発展的意見交換会の開催、報告書の作成。

C. 研究結果および考察

研究班は保健所長、保健所課長、大学研究者の計13名で組織した。

研究班・打ち合わせ会議では、「医療制度構造改革の流れの中で保健所はどのような対応が出来るのか」という大きなテーマの中で開催される平成18年度日本公衆衛生協会主催研修(保健所長研修・医療計画研修)と連携して当研究班を運営することを確認し、実際に研修会の開催を支援した。当研究の3年継続事業としての意義・意味を表1に整理した。

「医療制度構造改革の潮流の中での地域の拠点としての保健所の役割・実践」というテーマで、全国の保健所から優れた事例を取り出し、徹底したディスカッションによる検討を行い、保健所現場での実践に還元することを支援した(以下に保健所長研修における具体の事例提供者、提供内容を例示)。

【提供事例】(保健所長研修:東日本ブロック)

脳卒中地域連携バス構築(青森県東地方保健所長 山中朋子)、小児救急体制の構築(愛知県半田保健所長 澁谷いづみ)、医療安全(山梨県中北保健所長 古屋好美)、療養病床の再編(高知県中央東福祉保健所長 田上豊資)、保健医療・介護連携(島根県出雲保健所長 牧野由美子)

【提供事例】(保健所長研修:西日本ブロック)

糖尿病患者支援ネットワーク構築(福岡市早良保健所長 鈴宮寛子)、在宅緩和ケアネットワーク構築(宮城県仙南保健所長 高橋達也)、地域連携クリティカルパスの実践(富山県新川厚生センター所長 大江浩)、療養病床の再編(北海道室蘭保健所長 荒田吉彦)、医療体制の構築(長野県飯田保健所長 佐々木隆一郎)

第63回全国保健所長会総会が平成18年10月24日に富山市において開催され、全国保健所長会「地域保健の充実強化に関する委員会」から会員各位へ要請「医療制度改革における保健所の役割強化に関する緊急アピール」が提案された。当研修において、このアピールについても取り上げ、実際に保健所に何が出来るのかについて、具体の検討を行った。アピールの具体の内容を表2に示した。

研修と連携して運営される、事業班ホームページを作成・管理し、研修の事前課題提示やフォローアップ、研修に関連する情報のデータベース化・ナレッジマネジメント等をIT技術を駆使して行う試行事業を行った。ホームページのコンテンツとして医療制度改革関連資料、医療計画作成関連資料、健康危機管理関連資料など、データを蓄積している。

事業班ホームページと連携して運営するメーリングリストを独自サーバーで構築・運営し、特に研修の事後フォローアップを強化した。現在、厚生労働省健康局総務課地域保健室の方々にも入って頂き、活発に運営中である。

活動を推進する中で、課題として「県型保健所と圏域内政令市型保健所の連携のあり方はいかにあるべきか」が浮かび上がった。そこで、平成19年2月23日に福山地域において、厚生労働省大臣官房参事官(健康・医政担当)をお迎えし、2次医療圏毎に必要な医療計画の積み上げを行う上で、保健所の機能を最大限活用すべき、としたときに、県型保健所と政令市保健所との関係をいかにするべきで、政令市保健所には何が期待されるのか、について意見交換会を開催することとした。

最後に、上記の全活動を集大成した報告書を作成することとしている。

D. 結論

「医療制度構造改革の流れの中で保健所はどのような対応が出来るのか」という大きなテーマの中で開催される実践的研修会等を支援し、研修の事前課題提示やフォローアップ、情報のデータベース化・ナレッジマネジメント等をIT技術を活用して行う試行事業等を行った。さらに昨年度に引き続いて、実践的研修手法(ケースメソッド的検討手法:個別知識を総合的な観点から活用すると共に鋭い洞察力

や的確な判断力を養成する)をより一層高めることで地域保健分野の人材育成に貢献することを目指した。

E. 今後の計画

今後、これまでの研究班の活動をベースとして、関係する研究班等との更なる連携やホームページ、メーリングリストの一層の充実・活用の推進を図っていく必要がある。医療制度構造改革の潮流の中での各地域におけるモデル的事業の研究的推進を支援し、地域の拠点としての保健所の役割を提案する。

F. 研究発表

平成18年度は予定なし。

研究協力者

荒田吉彦(北海道室蘭保健所長)、川島ひろ子(石川県石川中央保健所長)、岡紳爾(山口県宇部環境保健所長)、角野文彦(滋賀県東近江保健所長)、嶋村清志(滋賀県甲賀保健所長)、中原由美(福岡県嘉穂保健福祉環境事務所副保健監)、梅本哲(株式会社医療産業研究所長)、藤田玲子(広島県福山地域保健所保健課長)、加藤和博(広島県福山地域保健所生活衛生課長)、櫃本真幸(愛媛大学医学部附属病医療福祉支援センター長)、金城芳秀(沖縄県立看護大学・大学院助教授)、佐藤牧人(東北福祉大学健康科学部教授)

表1 当研究の3年継続事業としての意義・意味

	システムの構築	システムの活用・評価
(平成16年度)	「ケースメソッド的検討」 入門用教材の作成 わかりやすい事例の提供	
1年目:	「ファシリテーターの役割と実際」 発展的教材の作成 多様な事例の提供	前年度に作成した教材・事例を研究班員等が様々な場面で活用・実践を積み重ねる中で形成的評価を行い、次年度の取組みに活かしていく。
2年目: (今年度)	医療制度改革を素材として、より実践的な事例の集積・発信(HP、MLの設置) 事例提供のシステム化(関係する研究班等との連携)	地域保健分野におけるケースメソッド的検討手法の確立
3年目:	HP、MLの充実・活用の推進 関係する研究班等との更なる連携	医療制度構造改革の潮流の中での地域の拠点としての保健所の役割を提案

表2 全国保健所長会「地域保健の充実強化に関する委員会」から会員各位へ要請
「医療制度改革における保健所の役割強化に関する緊急アピール」の具体的内容

<p>問題提起の概要</p>	<p>1. 全国の保健所長に対し、(1)生活習慣病の予防、(2)地域医療連携の推進、(3)受け皿となる地域包括ケアシステムの整備の3課題を保健所の最重要課題として、緊急かつ重点的に取り組むことを提起</p> <p>2. これまでの保健所の取り組み事例や現在取り組んでいる事例など、全国の保健所による先駆的な実践事例を早急に集めることにより、今後、保健所が果たすべき役割について具体的な肉付けをするとともに、そのノウハウを互いに共有し拡大する取り組みを開始することを提起</p>	
<p>提起された問題のより具体的な内容</p>	<p>(1)生活習慣病の予防</p>	<p>市町村と協働したコミュニティ・アプローチの推進</p> <p>ア) 個々人の努力で解決できない生活環境面の課題の把握(職域も含む)</p> <p>イ) 市町村との協働による上記の課題を解決する住民主体の健康なまちづくりの推進(管内の健康づくりの取り組み拠点として助言指導)</p> <p>関係部門、関係機関間の連携支援</p> <p>ア) 地域保健(ヘルス)と地域保険(国保)の連携調整</p> <p>イ) 地域保健(ヘルス)・地域保険(国保)と職域保険(政官健保等)の連携調整</p> <p>ウ) 医療保険者(特に国保)と医療機関等との連携調整</p> <p>エ) 保健師、栄養士等の確保と人材育成</p> <p>市町村による計画の策定から評価までの技術支援と各種計画間の総合調整</p> <p>ア) 国保による特定健康診査等実施計画が、健康増進計画・介護保険事業計画と一体的に策定・推進されるよう支援</p> <p>イ) 医療計画における脳卒中、心筋梗塞、糖尿病に関する計画との整合性の取れた計画づくりの支援</p> <p>ウ) 医療費適正化計画と市町村計画の整合性に関する調整</p>
	<p>(2)地域医療連携の推進</p>	<p>地域連携クリティカルパスなどの医療機関間の連携調整と医療福祉連携の推進</p> <p>ア) 地域連携クリティカルパス</p> <p>イ) 医療と福祉の連携推進(退院前後の医療と福祉の連携)</p> <p>住民(利用者)支援</p> <p>ア) 地域の医療機関情報の収集と確認</p> <p>イ) 情報公開された医療機関の機能情報を地域住民にわかりやすく提供</p> <p>ウ) 医療安全支援センター機能</p>
	<p>(3)受け皿となる地域包括ケアシステムの整備</p>	<p>地域ケア整備構想に基づく療養病床の再編への対応</p> <p>在宅(居宅)医療の基盤整備、介護保険事業計画との調整</p> <p>在宅(居宅)患者を中心とした医療福祉連携の仕組みづくり (退院後の医療福祉連携)</p>